

# 中国の社会運動報道における「狂う」運動参加者 と「正義の」警察に関する考察

～2019 年香港逃亡犯条例を改正する運動を中心に～

CHENG Yixin

抗議パラダイムとは、主流メディアが抗議者を例外的で異常な存在として描き、デモの中の過激で危険な行動を強調し、情報源として公式ソースを用い、社会運動における目標や理念についてはほとんど報道・議論しないことによって、社会運動を否定的に報道する傾向である。本稿では、2019 年の香港における逃亡犯条例改正反対運動を事例に、欧米社会とは異なる中国社会において、「報道における抗議パラダイムがどの程度まで適合されているか」という問いを持ちながら、中国報道の特質とその要因を考察したものである。

本稿は、全六章から構成されている。

第一章では、社会運動とメディアの研究、抗議パラダイム研究の歴史と現状を紹介し、社会運動研究における「抗議パラダイム」理論の位置づけを明らかにする。まず、McCurdy の文献レビューによる社会運動とメディアに関する既存研究の分類を引用し、「社会運動とメディアのダイナミックな関係の研究」と「メディアにおける社会運動の表象の構築」という2種類を分類した。そして、「抗議パラダイム研究」の歴史と現状により、抗議運動の原因や戦術が多様化するにつれ、報道機関がかつてのように抗議運動を「敵」と見なすことがなくなり、報道がより多様な表現になっていることが明らかになり、本研究の方向性を示す。

第二章では、中国における「抗議パラダイム研究」の歴史を紹介し、2019 年の香港の運動と中国のメディア環境を研究対象として分析することで、本研究の問題意識と研究意義を明らかにした。中国の特殊なメディア環境は、かつてメディアが抗議パラダイムに不都合を示し、抗議を肯定的に報道することを提示したことがある。しかし、2019 年の香港抗議に関する報道は、抗議パラダイムに高度の適合性を示していることがわかる。このような多様な報道パターンは、まさに近年の抗議パラダイム研究の課題である。

第三章では、本研究で用いた内容分析とそのプロセスについて述べている。まず、分析単位を

決定した。各記事は抽出単位として、社会運動に登場する対象は記録単位として、そして先行研究における抗議パラダイムの装置は文脈の単位として分析した。第二に、Wiseneeds というデータベースを用いて、中国の記事をサンプリングした。そして、全国紙・地方紙・かつて自由派と呼ばれた新聞紙という 3 種類の新聞を変数として設定した。また、先行研究のフレームを参考にしながら、本調査の目的を踏まえてコーディング・シートを作成した。信頼度の確認を完了し、コーディングを開始した。

第四章では、分析によって得られた結果を記録する。まず、コーディング・シートで得られたデータを概観し、その結果を表の形で示した。次に、新聞紙のカテゴリー別に、記事の月別推移を示した。最後に、得られたデータとコーディングする時のメモを「報道機関の特徴」、「抗議者と抗議運動」、「市民と目撃者」、「警察と政府」と「外国の勢力」という 5 つの視点から整理して結論を出す。

第五章では、研究結果をさらに分析し、抗議パラダイムの分野に対する本研究の貢献について説明し、最後に本研究の欠点と今後の課題について検討する。まず、中国のメディアは政治的な抗議に面する時、抗議パラダイムへの適合性が高いことが明らかにされた。その中で、「市民と対立する抗議者」、「負傷した警察官」、「外国勢力による扇動」という中国独自の 3 つのフレームが見出された。また、中国のメディアは、新聞紙を立場によって区別できていない場合が多いことがわかった。そして、本研究で見出された 3 つのフレームが抗議パラダイムの研究に貢献すること、そして「抗議者の外観」と「華やかな演出のような抗議活動」という装置が中国の文脈に適応していないことを明らかにした。最後に、本研究の欠点、すなわち、出現したフレームの由来について説明が不十分であったことを反省している。また、「抗議者と市民の対立」、「具体的な人間としての警察」または「冷戦時代の思想の影響を受けた中国は外国勢力への非難」というそれぞれの分野で、今後の課題として研究し続けていきたい。

第六章では、本研究の内容と結論をまとめ、抗議パラダイムという分野への貢献を改めて強調した。